千葉大学との連携により サンブスギと宮大工の技を活かした 地産地消の家づくりに挑戦

株式会社大功

1979（昭和54）年の創業から、地元・松戸市を中心に木材など建築資材の卸売りで発展してきた㈱大功。建築資材販売のプロとして「地域に安心を届ける」ことを経営理念に業容を拡大し、住宅のリフォームや新築までを手がけるようになった。さらに昨年からは、千葉大学、宮大工などと連携して県産材のサンブスギを活用した住宅「愉くらしの家」の普及プロジェクトに着手。県の新たなブランドづくりにつなげるとともに、木材の地産地消に取り組む。

サンブスギを活用した家づくり

「昔は〝家を建てる〟と言いましたが、今は〝家を買う〟という言い方をするようになりました。暮らしに合わせて家を建てるのではなく、買った家に合わせて暮らす。そんな姿が見えてくるようです。そうした時代の変化を感じるうち、ただ建材を売るだけではなく、本当に良い木材を使って価値のある〝家を建てる〟。そういう仕事をしたいと思うようになりました」

もともとは材木商としてスタートした㈱大功。その2代目、中村寧（やすし）社長は「サンブスギを活用した地産地消の家づくり」プロジェクトに着手した背景にある思いを語る。

同社が千葉大学との共同研究プロジェクトを始めたのは昨年8月のことだ。千葉県の地域産材であるサンブスギを使った家づくりを進めることで、サンブスギのブランド力向上をはかり、産地の里山保全や持続的な地域づくりにつなげることを目標とする。

独特の淡い紅色が美しいサンブスギは、一般のスギよりも硬くて木肌の色が良くツヤがあり、幹が真っすぐで太さに偏りがなく、丈夫で長持ちする住宅をつくるのに適している。花粉を飛ばす雄花をほとんどつけないことから、花粉の少ない優良品種でもある。しかし、安価な外国産材に押されて需要が低下した結果、里山を管理する担い手が漸減し溝腐病（みぞくされ）が発生。今年の台風15号では溝腐病で脆くなったスギが倒木して電線にかかり、地域の長期停電の要因にもなった。

こうした悪循環を家づくりの現場から解決する方策として、プロジェクトには木造建築において伝統構法の技をもつ宮大工、施主の希望を具体的なデザインに落とし込む設計事務所、PR会社なども参画。学生も交えて大功の事務所で会議を重ね、「愉（ゆ）くらしの家」というブランドを立ち上げた。

「家はその地域の気候風土で育った木でつくるのがいいんです。サンブスギの無垢材を使用し、熟練した宮大工が木の一本ごとの癖や性質を読んで「どこに・どのように使うのか」を判断しながら、釘や金具を使わない伝統構法で施工していきます。設計コンセプトは〝50代からの平屋〟。老後の暮らし

県産材のサンブスギを活用した住宅「愉くらしの家」。“50代からの平屋”を設計コンセプトに、ぬくもりのある木でつくられた安心して永く愉しめるすまいを提案

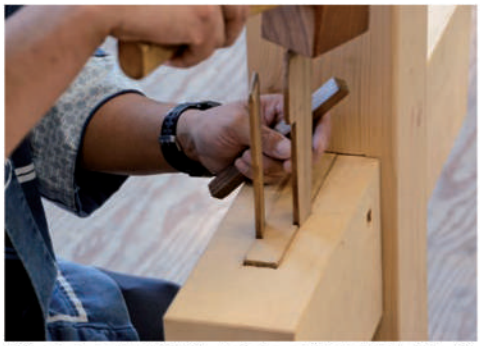
のために建て替えや住み替えを計画している50代以上の人をターゲットに、階段の上り下りの心配がいらない平屋としました。ぬくもりのある木の家で、安心して永く愉しい暮らしを過ごしていただきたいという願いを込めています」

いずれはモデルハウスを建設し、普及・PRを加速させていく構えだ。

変化に対応しながら事業継続

大功は1979(昭和54)年、中村現社長の父親が木材専門の販売店として創業し、地域でネットワークを広げながら事業を拡大してきた。

「先代が常々言っていたことは、地域の大工さんや工務店さんとのつながりを多くもつことの大切さ。取引を通じてできた協力関係が財産となり、現在の仕事にも活かされています」


「愉くらしの家」は熟練した宮大工が釘や金具を使わず、伝統構法で施工する

中村 寧社長

同社が木材専門から住宅資材全般を扱うようになったのは、大手住宅資材メーカーに勤務していた中村社長が入社した1998(平成10)年頃のことだ。それまで「株式会社大功木材」だった社名を「株式会社大功」へ変更した。

「住宅市場も変化し、木材だけでなく、住宅資材全般を扱う会社として再スタートしました。そのことを認知してもらうことが社名変更の大きな目的でした」

また、リーマンショック前後、リスク分散を図るために大手ビルダーとの取引比率を下げたり、取引基準を厳格化した結果、資材販売がやや減少する一方で、畑地でしかなかった周辺地域が新興住宅街に変貌していくのを見て、新築事業からリフォームまでエンドユーザーを対象としたビジネスに着手し、業績を伸ばした。

ここで気にかかるのが、それまで顧客として接していた工務店や大工との関係だ。資材の仕入れ先だった同社が競合となれば、顧客が離れていくのではないか。

「ありがたいことに、ほとんどの取引先がその後も協力会社としてお付き合いいただいています。当社からもリフォームや新築のお客様を紹介していますし、人手不足でお困りのところには大工さんの紹介などもしています。そうしたことを評価していただいているのだと思います」

同じ頃、グループ会社の㈲信共が、それら協力会社の業務効率化のために、財務会計、給与計算のアウトソーシング、フィナンシャルプランニング等の支援業務を手掛けるようになったことも関係の維持・強化に寄与しているのだろう。

また、2011(平成23)年には地元の税理士や弁護士、ファイナンシャルプランナー等とすまいるファミリー㈱を設立し、〝松戸のくらしのプロ集団〟をキャッチフレーズに、税理・保険・法律・不動産・建築リフォームなど暮らしに関するあらゆる悩み事をホームページにて無料で受け付け、案件ごとに専門家たちが連携して答えるワンストップ相談・支援ビジネスもスタートさせた。大功グループとして地域のニーズに応えるための新たなサービスを生み出すこうしたスタイルが、前述した「愉くらしの家」プロジェクトにもつながっていったのである。

安心を届ける会社

「安心を届ける」が同社の経営理念だ。顧客、従業員、地域社会に対して、安心して取引してもらい、働いてもらい、安心・安全な家を届ける。そのため、仕入れ先や地域の関係企業、金融関係などに向け、年1回の決算報告会や事業発表会を早くから実施するほか、地域住民や取引先を招いた「感謝祭」を20年にわたって開催してきた(感謝祭は昨年の20回目でひとまずの休止)。一方で、地域の中学生を迎えて行う「職場体験学習」は、業界の今後の発展のためにも継続していくという。

新たな「安心を届ける」ためのチャレンジである「愉くらしの家」プロジェクトも、地域活性化や高齢化社会への取り組みとして大きな成果をもたらす日はそう遠いことではないだろう。

会社概要

設立　1979(昭和54)年
代表者　中村 寧
所在地　松戸市紙敷1170
従業員数　16人
資本金　5000万円
事業内容　材木・新建材販売、建築工事
(千葉銀行取引店　八柱支店)